一般財団法人 日本アジア振興財団

団体概要・事業説明書

日本アジア振興財団はカンボジア赤十字社の法人会員及びカンボジアオリンピック委員会のオフィシャルサポーターです

団体概要

(1)団体理念

国際開発や国際交流に関心の高い、次世代の担い手の育成を推進すること

(2)行動指針

国際社会で通用するキャリアデザインを助長し、アジアにおける国際協力・国際交流を推進します

国際開発や歴史・政治・組織学・人材育成について専門的に研究します

活動を通して直面する社会問題の解決に取り組みます

(3)沿革

[2006 年] 在日本国カンボジア観光省・在大阪カンボジア名誉領事館・ＮＰＯ法人カンボジア振興協会の後援により、一般財団法人申請を行う目的で、日本アジア振興財団と改名し、大学生・大学院生を対象とする東南アジア諸国の短期インターンシップ事業活動を中心に再編

[2008 年] フォトジャーナリスト安田菜津紀さんを招き、写真展と講演会を開催

[2009 年] ホスピタルアート in カンボジア実施

[2011 年] One World Festival 初出展

[2012 年] 学生が学生に伝える in 八尾北高校 参加者が先生となり授業を行う

[2013 年] 一般財団法人化に向けて「日本アジア振興財団設立準備委員会」を立ち上げる

[10 月] 「一般財団法人「日本アジア振興財団」」設立

[11 月] 外務省 日・ASEAN 友好協力 40 周年認定事業として「一般財団法人日本アジア振興財団」設立式典を開催

[2014 年] 一般財団法人日本アジア振興財団・栗田英人理事とフィリピン政府観光省のアラチェリ・C・ソリアーノ西日本代表との間で、「フィリピン共和国と日本の学生の交流を行う」という目的のもと「ぼてぢゅう国際交流基金」が発足

[6 月] 「フィリピン チャレンジ プロジェクト」が発足

[8 月] 第一回アンコールエンパイア・フル＆ハーフマラソン開催

[12 月] 駐大阪大韓民国総領事館の支援で「日韓学生交流会」が発足

[2015 年] 国際事業部を立ち上げる

(4)役員等

顧　　問：山田 英男（在大阪カンボジア王国名誉領事）
代表理事：松岡 広隆（前衆議院議員/芦屋大学客員教授）
理　　事：前田 三郎（㈱キョードーファクトリー 代表取締役）
理　　事：栗田 英人（ぼてぢゅうグループ・㈱東京フード代表取締役）
理　　事：中村 瑛祐（㈱ジーエスフード代表取締役 副社長）
理　　事：藤原 将芳（㈱池田泉州銀行）

評議員：井上 昌也（㈱ ナチュラルケア 代表取締役）
評議員：平野 耕平（弁理士・行政書士）

監　事：青木 伸文（公認会計士・税理士）

アドバイザー：青木　豊彦（東大阪市モノづくり親善大使/株式会社アオキ会長）
アドバイザー：若松　直（第一綜合グループ・行政書士）
アドバイザー：ブック　チャンティー（ＪＨＣ副総支配人・山本日本語学校１期生）

学生委員会委員長　川本　大佑　（神戸大学）
フィリピン事業学生代表　横山　灯可里　（神戸市外国語大学）
学生スタッフ：関西 21 人、東京 8 人、九州 4 人

(5)団体連絡先(国内)

[大阪事務所]
住所　〒530-0044　大阪市北区東天満 1-11-13 AXIS 南森町 10F
TEL　06-6351-6855　／　FAX 06-6809-1767
URL　http://japf.or.jp

[東京連絡事務所]
住所　〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 3-4(在日本国カンボジア王国観光省内)
TEL　03-3269-1499　／　FAX 03-3269-1855

[福岡連絡事務所]
住所　〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2 丁目 7-14 天神シティービル 5 階 B 室

(6)団体連絡先(海外)

[タイ・バンコク事務所]
94/20(Room302)Floor 3 Ratchada City Condo Pracharachbumpen Road(Soi 7) Huay-Kwang, Huay-Kwang Distric ,Bangkok 10310 Thailand.
[ベトナム・ホーチミン連絡事務所]
67 Quan Su Street, District 11,Ho Chi Minh city, Vietnam
[カンボジア・シェムリアップ連絡事務所]
Phoum Krous Village, Svay Dang Kum Commune,Siem Reap District & Province, Kingdom of Cambodia.
[カンボジア・プノンペン連絡事務所]
73EO, 126Rd.,Shagkat Phsar Thmey,Khan Doun Penh, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia.

(7) インターンシップ事業等の後援・支援先

国際機関　日本アセアンセンター　大西　克邦（事務総長）
〒105-0004 東京都港区新橋 6-17-19　TEL03(5402)-8001

タイ大使館　商務省商務参事官事務所　パタイ・スックソンマイ（商務公使）
〒102-0083　東京都千代田区麹町５丁目４番地６Ｆ　TEL03(3221)-9483

在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館 チャン・ドゥック　ビン（総領事）
〒590-0952　堺市堺区市之町東 4-2-15　TEL072(221)-6666

在大阪カンボジア王国名誉領事館　山田　英男(名誉領事)
〒530-0013　大阪市北区茶屋町 12 番 6 号　TEL06(6376)-2305

在日本国カンボジア王国観光省　加藤　積(日本地区代表)
〒162-0825　東京都新宿区神楽坂 3-4　TEL03(3269)-1499

フィリピン共和国政府観光省　レオナ D.・ネポムセノ（西日本代表）
〒541-0053 大阪市中央区本町 3-2-5　本町ＤＩＳビル 1F　TEL06(6251)-2400

駐大阪大韓民国総領事館　李　賢主（総領事）
〒542-0086 大阪市中央区西心斎橋 2-3-4　TEL06(6213)-1401

「インターンシップ事業」について

(1)ベトナム・カンボジア概要

タイ、ベトナム、カンボジアへ赴き、日本の大学生とJAPF日本・現地スタッフと共にインターンシップを通して、ＮＰＯ、ＮＧＯや政府・国際機関で活動する事業現場を視察することで、国際開発とは何かを体験し、将来の国際開発を担うグローバルな人材を育成します。また、インターンシップ中も実践型のワークショップにより、国際協力を五感で体感することができる研修です。国際協力に関心が低い参加者であっても、東南アジア諸国の人々の生活と自己の大学生活を比較することで、自身の生活を見つめなおし、自己実現を協力することも念頭においております。

インターンシップ中、学生同志でのディスカッションの場を設けております。この主な目的は２つあります。一つ目は、様々な専攻を学ぶ大学生・院生のディスカッションにより、多様な価値観が参加者に与えられることで、学生たちの視野を相乗的に高めてもらうことです。二つ目は、ディスカッションした内容や研修で学んだ内容を学生たち自ら考え、行動のきっかけとすること（考動）で、学生たちに自分で考え動く力を養ってもらうことです。

～　研修分野と研修内容の一部例　～

教育	• 日本語学校の視察 • 大学教育現場の視察
文化	• 遺跡保護、修復活動 • 重要文化財保存事務所
医療/農業	• HIV病棟視察 • 農村でのホームステイ
社会	• ゴミ山視察 • 女性自立支援団体視察
国際協力	• NGO、NPOの事業現場視察 • 現地ワークショップ
経済	• プノンペン経済特区視察 • カンボジア観光省、文化芸術省視察

＜日本語学校での様子＞

＜ゴミ山視察の様子＞

＜修了書交付の様子＞

(2)「フィリピン　チャレンジ　プロジェクト」スタディツアー概要

栗田英人理事とフィリピン政府観光省のアラチェリ・C・ソリアーノ西日本代表との間で、「フィリピン共和国と日本の学生の交流を行う」という目的のもと「ぼてぢゅう国際交流基金」を発足し、「フィリピン チャレンジ プロジェクト」を運営しています。

教育・国際機関・国際ビジネス・社会を中心とした「人と人」との交流・研修を行うことを目的とし、現地の国際機関、ホテル・レストランなどのサービス業界やエンターテイメント業界を中心とした国際ビジネスの第一線でインターンシップ・研修を行います。さらに、孤児院の訪問や現地の NPO の活動に参加することにより、フィリピンの教育と社会についての知識を深めます。現地で英語研修や学生交流を実施し、次世代の国際人としての育成を行い、必要に応じて投資・貿易などを通じて両国の発展に寄与することを目的とします。また、国際的な企業、国際機関、国際的な NPO に興味があり、そういった場所で働こうと思っている学生のためのキャリアデザインを図ることも目的にしています。

現在アジアで急成長を遂げており、世界第 3 の英語公用国として知られるフィリピンで、ビジネス分野、教育分野、社会分野、及び語学（英語）分野の研修を行います。

～研修分野と研修内容に一部例～

教育	•現地大学生との交流 •孤児院訪問
国際機関	•観光省訪問　・JICA訪問 •JETRO訪問
国際ビジネス	•ホテル研修 •VIVA　Communications Inc.訪問
社会	•NPO活動に参加 •ごみ山視察
英語研修	•英会話のレッスン

＜JICA のプロジェクト視察＞

＜英語研修の様子＞

＜スラム視察＞

(3) インターンシップ事業の特徴

当団体スタッフの過半数以上は、学生で構成されております。学生が中心となることで、研修中に引率スタッフが参加者たちの自己実現を尊重し、支え合うことができます。学生たちの自己実現したいことと叶るべく2009 年に組織が再編され、領事館や観光省、他団体との関係強化を図ることで、より強い組織への一歩を歩み始めました。インターンシップ中に良く見受けられる光景として、学生引率スタッフが同じ立場の参加者に心から何かそ伝えようとする行動に、参加者たちが感化されることがあります。これは、年齢が離れた大人のスタッフではなく、同じ年代の学生が動くからこそ実現することができる当団体の強みでもあります。

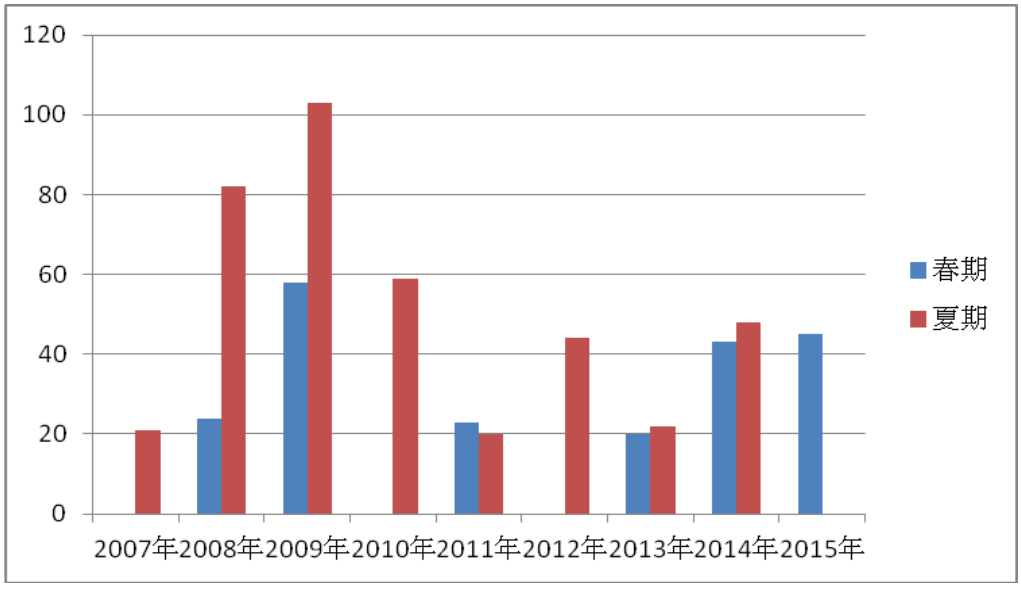
インターンシップ終了後の修了証書交付

インターンシップ修了後は「現地調査研修・修了証書」が発行され就職活動・転職活動等での公的な履歴書・職務書にも記載することができます。

〈カンボジア名誉領事館にての修了式の様子〉

〈日本アセアンセンターにての修了式の様子〉

(4) 実績



合計参加人数：612人（2010年度春期インフルエンザ／2012年度春期タイ大洪水の影響により中止）

過去参加大学：北海道大学・東北大学・岩手大学・新潟大学・東京大学・首都大学東京・早稲田大学・津田塾大学・立教大学・青山学院大学・日本大学・中央大学・東洋英和女学院 大学・東洋大学・国際基督教大学・多摩美術大学・中央大学、東京外国語大学・東京学芸大学・横浜国立大学・京都大学・京都府立大学・京都工芸繊維大学・立命館大学・同志社大学・京都薬科大学・京都女子大学・龍谷大学・京都産業大学・京都外国語大学・京都造形芸術大学・京都精華大学・佛教大学・ノートルダム女子大学・大阪大学・関西大学・関西学院大学・関西外国語大学・甲南大学・近畿大学・追手門大学・大手門大学・神戸市外国語大学・神戸女学院大学・神戸女 子大学・武庫川女子大学・甲南女子大学・甲子園大学・神戸大学・関西国際大学・同志社女子大学・追手門学院大学・摂南大学・和歌山大学・岡山大学・奈良女子大学・奈良教育 大学・四日市看護医療大学・広島市立大学・上越教育大学・北九州市立大学・長崎大学・専修大学・大阪府立大学・兵庫県立大学・金沢工業大学・法政大学・共立女子短期大 学・慶應義塾大学・筑波大学・東京工芸大学・信州大学・東京外国語大学・恵泉女学園大学・北里大学・福岡大学・久留米大学・福岡女学院大学・熊本県立大学・立命館アジア太平洋大学（順位不同・その他多数）

「 在日本国カンボジア王国オリンピック委員会事業」について

当団体は在日本国カンボジア王国オリンピック委員会を運営しています。 2020年の東京オリンピック開催に向けて、オリンピックへの参加方法をカンボジアで周知させ、オリンピック及びスポーツへの意識を高めてもらうべく発足しました。「観るスポーツ」から「参加するスポーツ」へと意識改革することにより、観るだけに尽きない感動を共有してもらいたいという想いで在日本国カンボジア王国オリンピック委員会は活動しています。 2014年8月17日、カンボジアにおいて障がい者および病院の支援を目的としたチャリティレースである第１回アンコールエンパイア・フル＆ハーフ マラソンが開催されました。日本側の企画を当委員会が担いました。

「国際事業部」について

国際事業部は日本と海外の相互理解を深めることを目的としています。通訳・翻訳、アテンド、社内教育、家庭教師、住宅サービス、及びビザ申請のサポートの6つの業務を通して、日本を知ってもらうことにより、外国人旅行者に日本の良い印象を持って帰ってもらうことは、日本理解の第一歩になると考えています。また、日本国内の社内教育などで、関わることが多い国の習慣や考えを伝えながら、海外のお客様やパートナとよりスムーズなやり取りができる環境を作ることをサポート致します。

通訳・翻訳
- 在日外国公館、大学、企業等の翻訳・通訳
- 会議、イベント対応
- 外国語資料作成

アテンド
- 在日外国公館のVIPアテンド
- 観光案内

社内教育
- 外国語研修
- 海外のマナー等の会社の内容に合わせた社内教育プログラム作成

家庭教師
- 国語教育
- 幼稚園から社会人まで

住宅サービス
- 外国人向けの住宅探しのアドバイス業務

ビザ習得アテンド
- 提携の行政書士事務所を御紹介致します
- ご相談の際の通訳サービス

その他、活動事業内容について

ホスピタルアート

医療・福祉施設で、ボランティア・患者・職員などが絵画や音楽などの創作・展示・発表などを行い、施設内を心地よい空間にすることによって、患者の精神的ケアを図るものです。

保育園の子どもたちと共に、インターンシップ過去参加者や学生委員会が、ステンドグラス風の工作キットで作った作品を、カンボジアのHIV 病棟の窓等に展示し病室を明るくする活動です。

インターンシップの参加者が、プノンペンのHIV 病棟にて、20 枚の作品を一人一人患者様に手渡しました。

写真展

第一回：2008 年 12 月 8 日 - 12 日、同志社大学

第二回：2010 年 3 月 9 日 - 3 月 31 日、立命館大学国際平和ミュージアム

ツアーの中で、実際にカンボジアの孤児院や地雷博物館、ゴミ山、HIV 病棟を訪れ、現地の人々と話をしました。カンボジアで待っていたのは、子どもたちの眩しい笑顔や地雷、HIV、貧困などの問題でした。これらの問題はカンボジアで起きた過去の内戦から 10 年あまりも経過した今もなお影響しています。写真展では、カンボジアの人々の写真を紹介し、HIV、貧困などの問題について学生たちが現地で感じたことを展示しました。この展示を通し、「戦争がないからといって平和と言えるのか」という問題提起も行うと共に、現地で暮らすカンボジアの子どもたちの明るい笑顔も伝えました。

One World Festival に出展

参加年：2011年、2012年、2013年、214年

2011年からの毎年に大阪で開催され、来場者が約17,000人のイベントに出展しました。団体紹介のブースにおいて来場された方々に活動を伝え、国際協力のワークショップを開催し好評を得ました。 POSTMANとして支援物資を集め、子どもから大人まで様々な人々に活動を伝えました。学生スタッフが現地研修中の様子などをパネルや写真を用いながら説明しました。

ベトナム人留学生との交流会

ベトナム人留学生がベトナム料理、日本人が日本料理を作ることによって、互いの国の文化理解を深めます。2013年11月16日に行われた「一般財団法人日本アジア振興財団」の設立記念式典でもベトナム人留学生との交流会を行いました。また、在大阪ベトナム社会主義共和国総領事館のご協力によりベトナムや日本で学生の交流イベントを行うことを決定しました。

ジャプフリマ

フリーマーケットを通じて物資を集め、カンボジアへ届けるという「ポストマン」の活動の一環であるフリーマッケットしています。同時に東南アジアの文化や情勢を知ってもらう為の広報活動も行っています。フリーマーケットの売上金は孤児院等への支援活動に、現地のニーズに合う物資は直接カンボジアへ届けています。

Open Sesame 開催

日時：2012年6月30日

場所：京都キャンパスプラザ

学生団体の活動紹介や学生に学生生活をより豊かにするきっかけ作りを行う会を催しました。

参加団体：関西あおぞらプロジェクト/アジア教育支援グループたすき/FIWC関西/Momojiro/Hearts Tree/TFT-UA関西

関西カンボジアネットワーク報告会参加

参加年：2013年、2014年

このイベントには、関西で様々な形にカンボジアに関わる活動をされている団体が集まり、プレゼン発表とブース出展で活動内容を共有することで他団体の人と親睦を深めることができます。

日韓学生交流会発足

2014年12月6日（土）、大阪市内で日韓学生交流会の発足式を行いました。

駐大阪大韓民国総領事館のご支援を頂き、一般財団法人日本アジア振興財団と全国学生連携機構が協力し、日韓学生交流会を発足させ、発足式典を行いました。

約100人の日韓大学生・高校生が集まり、これからの日韓間系の将来を語り合いました。

韓国の総領事のお話や日韓関係の教授の講演を参考にして、韓国人、日本人、在日韓国人の学生同士の話しが盛り上がりました。　学生のディスカッションの後に韓国料理が楽しめる大交流会を行いました。

一晩で初対面の人が友達になり、自分の大学でもヘイトスピーチを体験した学生と日韓問題が遠く感じる学生とお互いの意見の交換ができ、韓国人、日本人、大学生、高校生を問わず、参加者の皆が仲良くなって、一つとなりました。

〈日韓学生交流会の発足式の様子〉

新聞掲載について

大阪日日新聞　2013年11月17日（日）

国際的な人材育成へ

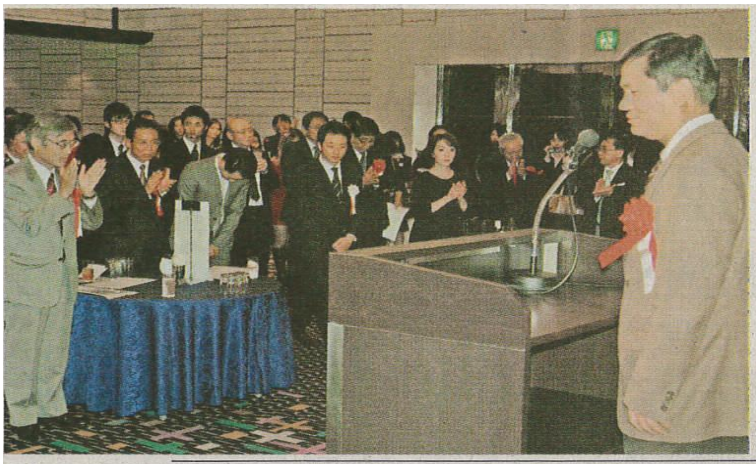
日本アジア振興財団 設立式典で決意

国際的な人材の育成を目指す日本アジア振興財団の設立式典が16日、大阪市中央区のホテル日航大阪で開かれた。代表理事に就任した元衆院議員の松岡広隆氏は「未来につながる活動をアジアで行いたい」との活動方針を示した。

日本がカンボジアと国交樹立して60周年、ベトナムとは40周年の節目を迎え、従来の任意団体から一般財団法人へ再編。役員として在大阪カンボジア王国名誉領事の山田英男氏が顧問に就いた。

計画によると、日本の学生をカンボジア、ベトナム、タイのアセアン地域に派遣し、現地のNPOや政府機関でのインターンシップ（就業体験）を通して将来の国際開発を担うグローバルな人材を育成していく。

式典に出席した外務省の小島誠二特命全権大使は、安倍晋三首相の東南アジア諸国連合（ASEAN）歴訪に言及し「日本の若い人が（ASEANの）3カ国で見聞を広めるのは素晴らしい」とエールを送った。式典には在阪の大学生やアジアの留学生も出席し、国際交流への決意を新たにしていた。



日本アジア振興財団の設立を祝う式典出席者＝16日午後、大阪市中央区のホテル日航大阪

2013年11月23日（土）

潮騒

2020年をめどに「留学生受け入れ30万人」を目指す文科省や外務省は、留学生が卒業後も国内に定着して活躍する環境整備に余念がない。来月3、4日には留学生も対象にした企業説明会が大阪市内である。経済のグローバル化を踏まえた海外人材の確保策だが、必要なのは草の根の活動だろう◆「知り合いの有無でかなり違う」とは日本アジア振興財団代表理事の松岡広隆さんだ。留学を円滑にする制度をいくら整えても、母国を離れる生活に不安は付き物。その際、知り合いがいてくれれば安らぐというわけだ◆財団は現在、日本人学生をアジアの国々にインターンシップ派遣する事業を展開中。そこで出会った現地の学生が日本留学を希望したとき、その日本人学生が「知り合い」に成り得ると松岡さんは説く◆日本にとってことしはカンボジア国交樹立60周年、ベトナムとは40周年の節目でもある。経済発展する東南アジア諸国連合（ASEAN）との間に高まる友好ムードをいかに日本の経済成長につなげるか◆東京都内で来月開かれる日ASEAN特別首脳会議に先駆けて、ASEANの各国を歴訪した安倍晋三首相の狙いはそこにあろう。国際交流に誠意は欠かせない。（深）

産経新聞　2013年12月10日（火）

日本とASEANの懸け橋をつくりたい

「日本アジア振興財団」学生代表の立命大生

人

川崎愛華（かわさきあいか）さん（21）

「日本と東南アジア諸国連合（ASEAN）地域との懸け橋をつくりたい」

10月に発足した一般財団法人「日本アジア振興財団」（大阪府豊中市）の学生代表を務め、日本の学生をベトナムやカンボジアに派遣して草の根レベルの交流に汗を流す。

財団は今年9月まで、任意団体として活動、発足した平成18年以来、インターンシップなどで両国に400人以上の学生を派遣してきた。

立命館大学国際関係学部3年に在籍する自身もその一人だった。英語の授業で学習した発展途上国の貧困問題に興味を抱くようになり昨夏に初めて両国を訪問。そこでゴミの山の中で生活する人たちと出会い、人生観が変わった。

「私たちは学べることを当然だと思っているけど、そうではない人たちが同じアジアにはたくさんいることを知ってほしい」

帰国後、財団の運営スタッフとなって周知活動に注力するなか、一般財団法人への移行を決意した。「任意団体ではインターンシップ活動をしても大学側が単位として認めないのが実態で、応募が広がらない」と考えたからだ。法人格を得たことで「各大学との調整次第で単位の取得も可能になった」という。

日本・ASEAN友好協力40周年、日本・ベトナム国交40周年、日本・カンボジア国交60周年という節目の年の一般財団法人化に感慨もひとしおで、「社会的な信用が高まった分、責任も増えた。各大使館などと協力し、より多くの学生を派遣したい」と意気込む。

卒業後は、日本とASEANを結ぶ交通関係の仕事に就くのが夢だ。

（浜田慎太郎）

平成4年、京都市生まれ。京都府内の小、中学校、高校に通い、立命館大学に入学。2年生の夏に、日本アジア振興財団の活動を通じ初めてベトナムとカンボジアを訪問し、帰国後同財団のスタッフに。今秋、学生代表に就任した。

朝日新聞　2014年12月7日（日）

青鉛筆

▽政治や経済の関係が難しいからこそ、理解を深めることができれば――。日本と韓国の大学生ら約90人が6日、大阪市内で交流会を立ち上げた。

▽大阪の韓国総領事館が日本アジア振興財団などに呼びかけて実現。お互いの国の古代史や生活文化を学んだ後、多彩な種類の韓国料理を囲んだ。

▽お酒やお茶を入れた紙コップを持ち、韓国語で乾杯のかけ声を意味する「ウィハヨ！」。「恋愛のように友だちから」と一緒に手巻きずしを作る人もいた。

大阪日日新聞　2014年12月16日（火）

不幸な歴史、繰り返さぬよう

日韓学生交流会が発足

料理囲み意見交わす

北区

歴史認識に基づく日韓関係が厳しいときだからこそ、高校生や大学生同士の相互理解を深めようと「日韓学生交流会」が発足した。関係者らは、次世代を担う若者たちが自らの運命を切り開いていく場になればと思いを込めている。

（畑山博史）

発足式は6日、北区堂山町のビジネスセンターで実施。約100人が参加した。

呼び掛け人を代表し、李賢（イヒョン）主（ジュ）駐大阪韓国総領事が「外交官として多くの国に赴任したが、いったん戦争になると皆さんのような20歳前後の若者が最も多く命を落とす。不幸な歴史を繰り返すことなく、若者が自分たちの運命を築いていく事が大切」とあいさつ。ことわざとして「真実は常に一つ。ただしそれは一つではない」との言葉を紹介した。

富原宣之・韓国大阪青年会議所会長のあいさつ後、本郷真紹・立命館大副学長（日本古代史）と金相俊（キムサンジュン）・近畿大准教授（旅行業務論）が日韓関係の歴史を踏まえ、これからの展開を考える基調講演を実施。日韓両国学生や在日コリアン学生を交えたパネルディスカッションは「学生から創る日韓の未来」をテーマに意見を交わした。

交流会では、協力した大韓貿易投資振興公社や日本アジア振興財団の代表があいさつ。用意された韓国料理を食べながら、あちこちで日本語の乾杯を意味する「ゴンベ」「ウィハヨ」の声が飛び交い、日本の手巻きずしに当たるキムパップ作りを一緒に楽しんだりして盛り上がった。

用意された韓国料理を食べながら、日韓交流を繰り広げる両国学生ら